

令和8年度（2026年度）熊本市立図書館協議会

－ 議事録 －

日時 令和8年（2026年）8月27日（木）

午前10時00分～

会場 熊本市立図書館 2階 集会室

《出席者》	《出席者》
■熊本市立図書館協議会委員	■熊本市側
八幡 彩子 委員（会長）	古家 熊本市立図書館長
岡田 大輔 委員（副会長）	松成 とみあい図書館長
岡崎 雄治 委員	西村 植木図書館長
野田 建男 委員	松田 城南図書館長
高松 幸代 委員	石本 くまもと森都心プラザ図書館長
西島 徹郎 委員	
高野 真理子 委員	
塚本 綾 委員	
本田 恵典 委員	
	（事務局）
	松里館長補佐 （熊本市立図書館）
	村上主幹 （ ” ）
	早樋主幹 （ ” ）
	岩野主幹 （ ” ）
	福岡主幹 （ ” ）
	藤原参事 （ ” ）
	森江主任主事 （ ” ）
	以上 12 人
《欠席者》	0 人
《傍聴者》	0 人

令和 8 年度（2026 年度） 熊本市立図書館協議会 議事録

- 1 開会
- 2 熊本市立図書館長挨拶
- 3 委員、職員紹介、会長・副会長の選任
- 4 議事
 - 議題 1 令和 8 年熊本地震による被害状況等について
 - 議題 2 令和 7 年度（2025 年度）図書館の事業報告について
 - 議題 3 熊本市立図書館施設整備の方向性について
- 5 その他
- 6 閉会

挨拶・委員紹介・会長選任は省略

【議事】

議題1 令和8年熊本地震による被害状況等について（資料1）

（事務局より説明）

- 委員 特に差し迫って何かしないといけなかったり、直近に何か判断しないといけな
いようなことはなく、なんとかやっていけそうだという理解でいいですか。
- 事務局 10年前の地震では、かなり被害がありましたが、今回は、植木図書館と本館に
つきましては、幸いなことにあまり被害がなかったものですから、子どもたちが
夏休み中ということで居場所づくりということから、早く開館できないかとい
う相談もあったんですが、余震の心配もございまして、1週間程度は警戒する
という話もございましたので、そこまでは待つ形で開館しました。プラザ図書館で
は、まだエスカレーターが止まっているということで、今後、9月中ぐらいに復
旧を目指しているところです。本館も、エレベーターが急に止まり、中に人がい
ないことは確認できましたが、使用禁止の措置をしたり、不測の事態として急に
空調が止まったり、地震によって機器が誤作動したりすることもあります。今回
初めて開館中の地震ということで、お客様がいらっしゃる状態での避難誘導は、
初めての経験でございましたけれども、本館の方ではだいたい60人ぐらいい
らっしゃったと思いますが、混乱もなく、避難誘導に従って皆さん避難してい
ただきました。5強ということで、そこまではないですけど、滞りなく、避難が
出来たというのは良かったなと思っています。差し迫ってどうという話にな
りますと、予算の話になりますけれども、今回、局地的な激甚災害ということで、
地域を問わず、今回の地震につきましては補助するということが決まったよう
で、社会教育施設につきましては3分の2の補助をいただけるということで、こ
れに向けまして、今、予算の要求をしているところでございます。ただ、こちら
につきましても、市としての決定になりますので、まず要求を上げて、後から補
助をいただける流れになると思います。まずは現状復帰、危険箇所についてはゾ
ーニングをして、安全を確保するようにしていますけれども、元の状態に戻すま
でにちょっと時間がかかるかなというふうに思っているところです。
- 委員 怪我した人とかがいなかったのが良かったことなのかなというふうに思っ
てますし、お金に関しても、この後、書類を作ったり、皆さんいっぱい仕事がある
んだと思うんですけども、とりあえずはそんなに心配がないというところで
安心いたしました。
- 委員 10年前にも、震災に強い施設づくりということで取り組まれたこともあった

と思うんですが、何かその時に取り組んだことが、今回生きたというようなことがございましたら、ご披露いただければと思います。

事務局 10年前の熊本地震の時には、図書の落下が非常に危険ということで、来館者に本が落ちてくる危険があるということで、落下防止テープという摩擦があるテープがあるんですが、そのテープを高い書棚のところには全て張り巡らしておりました。その甲斐もあってか、今回の地震では、本館については、お客様がいらっしゃるところでは、今回は1冊も落ちることがなく、安全に過ごすことができたかなと考えております。

委員 城南図書館は、固定している書架も外れてしまったというような写真が出ていたかと思うんですが、10年前と今回の地震の揺れの状況が、震源地に近い熊本市の南の方ということで、何か今回の地震で特段補強しなくてははいけないというか、そのように考えられたことありますか。

事務局 補強といいますか、先ほど落下防止テープのお話がありましたように、当館でも同様の対応をしておりました。ただ、城南町は震度6強ということで、揺れの強さがこれまでとは違いました。それまで震度5程度であれば、図書の落下はほとんど起きなかったのですが、今回のように震度6強を超える揺れになると、やはり落下が起きてしまいました。ちょうど3年ほど前、当館では天井の改修工事、耐震工事をしていただきました。その際、改修工事以前の天井にあった防煙ガラスが、10年前の地震で落下したことがありました。開館時間中ではなかったため人的な被害はありませんでしたが、落下したガラスの破片がかなり広範囲に広がり、さらに図書にもガラスの破片が降りかかるなど、復旧に期間を要したということがありました。今回は、改修工事後の発災でありましたので、建物自体については外壁パネルの一部破損がありましたけれども、それ以外に建物の大きな破損はありませんでした。そのような点では、市の対応としてこれまで対策してきたことが、今回の地震において生きたのかなというふうには感じております。

委員 今回の地震での課題も、今後改善されるように、こうした経験をきちんとまとめておく、こういう機会で検討しておくということも大事なのかなと思います。引き続きよろしく願いいたします。

委員 私、小学校にいますけれども、電子図書館の方も、子どもたちが読める読み放題といいますか、徐々に増やしていただいて、大変ありがたいなと思っているところなんです。電子図書館、去年から5か年計画で行われた市の読書活動の推進計画の中でも、活用をとというのはあがったと思うんですが、例えば、休館中に電子図書館は通常通り行われていたのかとか、地震に関して新たな動きとか、貸し出しが多くなったとか、その辺があるのかとか、すぐデータがわからないと思うんですが、あるいは地震を受けまして、今後こういう災

害とかを考えた上で、電子図書館に関しての新しい動きなんか、今後、検討課題に上がっているのかとか、電子図書館についてそういうのがあればと思います。

事務局 電子図書館についてでございますが、電子図書館の利点は365日、24時間使えるという利点がございます。今回の熊本地震の場合も、電子図書館は通常通りご利用いただくことができました。そして利用数は、地震後、電子図書館の利用、ちょっと例年に比べて少なくなっております。やっぱりなかなか本を読むような気持ちではなかったのかなと拝察しておりますが、これから少しずつ回復していくと考えております。地震に伴っての今後の動きということですが、今の時点では検討がございません。熊本市ではございませんが、他都市、東京の立川市から、被災自治体の図書館に電子図書館のサービスを提供したいという申し出がありまして、自治体とつなげて欲しいというご依頼がありましたので、八代市立図書館を、ご案内して、立川市と八代市の方で電子図書館の利用について検討を始められたという情報が入っております。

委員 電子図書館は止まらなかったということですね。そうした情報もぜひ学校現場に共有していただいて、利用を図っていただければと思います。

委員 避難についてなんですけれども、今回、利用者がいらっしゃる時間帯での発災ということだったので、避難誘導がスムーズだったのか、また何かその時に困った点があったのかなどがあれば伺いたいです。私も普段、城南図書館を利用するんですけれども、やっぱりちっちゃいお子様から年配の方までかなり幅広い方が利用されているので、そういったところでの避難誘導で、困ったところ、スムーズだったところとかがあれば伺いたいです。

委員 他の図書館でも、地震発生が4時半頃でしたので、まだ利用者の方いらっしゃったのではないかとということでお願いいたします。

事務局 本館です。先ほども申し上げましたけれども、結構長い揺れがあつて、私は出口のところにいたんですが、揺れが収まってから戻ってきまして、実際には訓練をしていた甲斐があつて、本当にスムーズに、お客様のほうも誘導に従っていただきましたので、特に問題なく非難ができたんじゃないかと考えております。それから、その場でも一旦、荷物を置いていかれた方もいらっしゃったので、その後、揺れがある程度収まってから、戻ってきていただいて、閉館したという状況です。初めての経験にしては、非常に良くできたんじゃないかなと、職員の日ごろの訓練が生きたんじゃないかなと思っております。

事務局 植木図書館です。植木の方はそこまで揺れてはいなかったんですが、当時は15人か20人ぐらい来られていて、私もたまにちっちゃい子の本と一緒に探してて見つかった時だったので、手を引いて、大きい机がありまして、その下に入って、揺れが収まって避難しました。植木図書館は入り口がすぐ外と近

いですので、誘導というほどもなく、外に皆さん出ていただいて、安全を確認して、中に荷物を取ってすぐ帰ってもらって、閉館は、その後したというような感じです。

事務局

城南図書館です。避難訓練の動きを職員全員で行いました。10年前の地震の際には、避難用の非常口から出たところの西側の壁が崩落したため、もし10年前が開館中であったとしたら、西側非常口からの避難はできなかったと思います。ただ、今回はその壁の崩落もなく、また、そこから避難する前に、職員がまず逃げ道の確認をするということを、避難訓練の中で常に行っておりますので、どこから逃げられるかというところを確認しました。そして、揺れが収まった後、館内にいるお客様にお声がけをして、一緒に外へ避難したというようになります。荷物に関しましては、揺れが収まった後に、一旦外に出て避難待機する場所での様子では、ほとんどのお客様が手元に荷物を持っていらっしゃいましたので、その荷物を持って、そのまま出ていただいたというような形になります。その後は、施設の中にはお客様が入ることなく、職員は必要な連絡先等の持ち出し物を持って、施設の外で利用者対応や、臨時休館の準備を行い、お客様にはお帰りいただいたというような対応をしました。揺れが収まった後は中へ入ることなく、無事、皆さんに避難していただいたというところになります。

事務局

プラザ図書館です。夏休みということもあり、勉強をしている学生さんが多く、ほぼ席も埋まっていて、だいたい100人ほどいらっしゃったかと思います。ただ、皆さん若かったのも、揺れが収まって、当館でも本がちょっと落ちたりはしたんですけれども、棚から離れてくださいということと、怪我をしている方がいらっしゃいませんかという声かけをしながら、うちは出入り口が1箇所しかありませんので、自動ドアを停止させて、エスカレーターで逃げるように館内誘導しました。ただ、エスカレーターが止まってしまったので、一人、お怪我をされている方が、地震で怪我をしたではなくて、やっどギプスが外れたという方がいらっしゃって、その方を誘導するのに時間がかかったんですけれども、その際に余震とかもちょっとあったので、3人がかりでスタッフが脇を固める形で避難をさせていただきました。お客様には怪我もなく、速やかに避難していただいたんですけれども、荷物を置いて離席している学生さんが2名ほどいらっしゃいましたので、当館も全員避難したら中に入ることはできなかったんですけれども、スタッフ2名と付き添って荷物を持って来ていただいて、その後は施設自体が立ち入り禁止になりましたので、スタッフは荷物をもって、そのまま休館というかたちで対応させていただきました。

委員

普段、訓練されているのが生かされたんだなっていうので、とてもこれからの利用も安心してできます。

- 委員 私も避難誘導のことについて、特に八代の方を考えますと、大変だったろうなというようなことを思ったわけです。実は、私は10年前は御船にいましたので、2つの地震を経験しております。前震が夜の9時半、本震が夜中の1時半ぐらいでした。ですから、こういった公共の施設の中に人がいる時、あるいは学校があっている時、そういう時じゃなかったのが不幸中の幸いだったかなと思っています。やっぱりその後、いろんな訓練を私たちもやったわけですが、一番気になったのが、残っている人がいないかどうか、トイレそれから学校でありますと更衣室であるとか、そういうところに人が残ってないかどうかとか、あるいは私はその時、いわゆるコミュニティセンターの所長も兼ねてましたので、誰が最後のみかじめをするのかということについても、ずいぶんいろいろ議論をいたしました。しかし、誰かが見回らないと、トイレでうずくまっている人がいたら、じゃあどうするのかというようなことで、これは余裕があれば行くというふうなことが最終的な結論だったろうというふうに思います。そうしませんと、他の人まで、あるいは救助に行った人まで巻き込まれるというようなことになりますので、大変難しい判断だと思うんですが、その辺のところどんなふうにお考えになっていますでしょうか。
- 事務局 市立図書館ですけれども、前回は6弱6強だったので、今回5強ということで、やっぱり揺れが全然違いましたので、比較的余裕があったという感じもありまして、マニュアル通りにまずトイレとかエレベーターとか全部確認して行って、人がいそうなところに声かけをして、誰もいないという確認をずっとすることができました。ただ、委員がおっしゃる通り、これが6強とかの場合に実際どうなるかというのはですね、その時に今回もいろいろな問題が各地でもあってますけれども、ケース・バイ・ケースで、どこまで誰が指示をしていくかが非常に難しいんじゃないかなと思います。図書館は幸い火の気がないところですので、あまり火災の心配はないんですが、そういったものをどういうふうに臨機応変に考えていくかは、難しいんじゃないかなと改めて思いました。
- 委員 マニュアルもそのあたりも含めて対応されているようですけれども、揺れの状況等に応じて、そのあたりも現場の判断で臨機応変に対応されているというようなお話だったかと思います。いろいろ安全に利用できるような体制を整えていただき、ありがたいなと思って伺いました。
- 委員 こちらは避難所にはならないんですか。車中泊させてくださいというように、車を入れさせてくださいと言われたら、それも出来ないということですか。
- 事務局 10年前の時は、完全に避難所が満員になりましたので、隣の大江公民館が拠点になっていますが、補完する避難所として、ここを5月8日から7月3日まで開けていたという実績があるようです。当時、27名の方がこちらに来られ

たということで、いよいよの時には、こちらはクーラーが入るというのがありますけど、基本的にはまず避難所に行ってください、その後、どうしても入れない方がいらっしゃった場合には、ケース・バイ・ケースで対応していく中で、市の本部の災害担当から指示が出るのではないかなと思っております。

委員 今までの準備の結果が生かされたのかなというふうには思いますし、本箱から本が落ちるっていうのは、まあできればありたくはないですけども、そのむやみに落ちなかったら、こう本箱ごと倒れて、人が挟まったら命に関わりますので、本が落ちた方がいいというような考え方もありますので、本が落ちることはそれなりに想定範囲内で、計画通りに収まったのかな、そんなに大反省するようなところはないのかなというふうに伺っている限りでは思いました。

委員 専門家からのご意見ありがとうございました。

議題2 令和7年度（2025年度）図書館の事業報告について（資料2）

（事務局より説明）

委員 資料の6ページにある広域利用の件ですけども、これは、熊本市と連携中枢都市圏構想の協定を結んでいるところとのやり取りという理解でよろしいですか。

事務局 現在、熊本市を含めて24市町村で連携を結んでおりまして、図書館は、そのうち3つの市町を除く20の市町村と協定を結んでおりまして、利用しているような状況でございます。

委員 この中で、宇城市ですかね、結構利用冊数が多いのかなと思って、震災の後の支援というか、充実していただくのがいいのかもしれないんですけども、あちらの震災の状況によってはどうだろうかと思いながら見させていただいたりしました。それから、次の7ページに電子図書館。先ほども電子図書館の話があったんですけど、これ上昇なのかと思うとそうではなくて若干減っているんですが、これはどういう仕組みでしょうか。

事務局 電子図書館につきましては、令和元年度から始めまして、資料の購入に努めて行きたいところでございますが、なかなか予算の制約もございまして、その中で令和2年度の時にはコロナがあり、特別に5,000万の予算がつきました。通常1,000万の予算ですが、その時に大量にコンテンツを買えた経緯があります。そこで伸びたんですけども、ライセンスが2年間ということがございますので、自動的にライセンスが切れる、電子図書館の一番の弱点である資料の保存が出来ないということがあり、コンテンツ数をキープするにはそれ相応の予算がいるんですが、通常の1,000万の予算では、そこはキープ出

来ず、少しずつ減少している状況です。

委員

広域利用のところで、例えば私、龍田ですけども、菊陽町とか合志市とか、特に菊陽町はすごく発展していて、図書館もいい図書館を持ってらっしゃるんですね。ああいうところと連携できないのかなあと。図書館で、熊本市に近いとか、熊本市に来られるとか、そういうところをちょっと考えて、そういうことがあるならわかるんですけど、広域都市圏っていうだけでなのかなってそういう疑問がありました。

事務局

菊陽町と合志市も同じ連携中枢都市圏で、こちらからは以前からアプローチをしているところですけども、益城町は今年から相互利用が出来るようになったんですが、残っているのが菊陽町と合志市と阿蘇市。阿蘇市はかなり遠いということで要望はないようですが、菊陽町と合志市については利用のご要望がございまして、私は2年目になりますが、来る前からそういったお話があつてんですけども、こちらの方から毎年、お願いは差し上げてるんですけど、受け入れる自治体の方が、まずご自分のところの方のサービスを優先したいというようなお話がございまして、まだ実現がしないような状況でござい

委員

私たちは地域で、サロン活動をしております。「どなたでも」という触れ込みです。以前は、前期、後期高齢者以上の方たちが大勢いらっしゃいました。けれども、だんだん参加者が減ってきました。本当に少なくなり、ましてや男性の方が、ほとんどいらっしゃいません。男性の方はどこに行つてらっしゃるのかなって思います。それが課題の一つでもあります。ここで今、4ページの貸出者年齢構成が、60歳以上の方が実に多いんだなと思いました。それで、図書館でそういう高齢者の方々を対象に、図書館として、今こういう新書が出てますよとか、本の内容とかですね。図書館で出来るサロンみたいなのを開いてはもらえないのかなと思ったところです。地域でのサロンは、その近くにある施設の方が来られて体操されたり、熱中症にかからないための対策とか、いろんなことを教えてもらえます。それで軽い食事がついたりしますけれども、男性の方っていうのは、そういうのはもう嫌なのかなって思います。でも、やはり男性の方を多く呼び込んで、そして元気な65歳以上の方が図書館に来て、1日とは言いませんけれども、図書館サロンみたいなのが出来ないかなと思いました。

委員

サロンのお話がありましたが、図書館で読み聞かせの活動をされている委員の方もいらっしゃるの、あるいはそういう活動のご体験はいかがでしょうか。

委員

読み聞かせは、個人的には高齢者施設に行っている者もおります。その場合は、お話として届ける、昔話を届けるとか、あとはわらべ歌で遊ぶというようなプ

ログラムで、私はもう今、行ってませんけど、そういう施設に行っております。重度の認知の方もいらっしゃるし、通所の方もいらっしゃる場所に通っておりますけれども、活動するメンバーがなかなか集まらないというのがありますし、施設の時間帯というのがございまして、なかなかマッチ出来ないというのがあります。もしそういう連携で活動があるとなった場合は、ボランティア側の方も仲間と協働していけるのではないかと私自身は考えます。今のところ、そういうふうに高齢者対策はちょっとありませんけど、0歳児から未就園児の対象の活動は活発にやっております。

委員 高齢者向けの、何かそういう自発的な活動がどこかで展開されているというようなことはございますか。

事務局 市立図書館では、小さい子どもさんを対象にした読み聞かせについては、やっておりますけれども、高齢の方向けのそういったサロンはやっていません。隣の公民館とかですね、そちらにはそういった講座があるんじゃないかなと思っています。実際に男性の方も、図書館に、60歳を過ぎられた方とか、毎日ひとりで来られて、新聞を読まれたりで来られていますが、交流があっているかと言いますと、多分、来館してそのまま家に帰られてという状況ではないかと思っています。そういった人とのつながりが出来ていって、家でずっといらっしゃる方が社会参加につながるのであれば図書館として意義があると思いますので、ハードルは高いのではないかと思いますけれども、連携して出来るようであれば考えてみたいなと思います。

委員 今、館長がおっしゃったように、私たちも若い子どもの世代とか、お年寄りの世代とか、とりあえず町内に住んでいる人たちに、いろんな活動をしてもらおうってプログラムを作るんですよ。ただ、参加者っていうのは限られていますね。以前は、横の繋がりが強かったので、お話をすると友達を誘って来られることが多かったのですが、今はやはり多世代化って言いますか、昔からいらっしゃる人自体が少なく、新しく入ってこられた方たちが、町内で自治会に入ってるけれども、いろんなものを呼びかけしてもなかなか来られない。館長おっしゃるようにもう60歳以上でも、私も龍田の図書室に行くと、男性はまだ結構いらっしゃるんですよ。でも、男性は一人なんですね。女性は結構集まれるんですよ。そういうパターンがあるので、一概には言えませんが、一つの提案で、そういう機会みたいなのをイベント的なもので作って、実際来られるかどうか。私たちも結構イベントを仕掛けるんですけども、集めるのが大変です。集まらなると、逆に来ていただく方に気の毒な部分がちょっとあるんで、どうやって高齢者の人たちとか、子どもたちを集めるかっていうのが、それが地域の課題でもあります。

委員 支援学校の校長をしていますけれども、子どもたちに卒業後は図書館に行け

るようにということで、図書館の利用の仕方の学習もしたりするんですよね。今回この統計を見せていただくと、たくさんの方々が利用されてるなと思いますけど、この中で障がいのあるお子さんとか障がいのある方が利用している割合は、車椅子の方がいらっしゃいましたとか、聴覚障がいの方がというふうなところを何か見かけられたりして、だいたいよく利用されているのか。いやいや、もう全然っていうふうなことか。そういうところって何か肌感でわかりますか。

事務局 私は、たまたま見かけただけかもしれないんですけど、放課後デイサービスの方が、第二駐車場は本館から150mくらい遠いんですけども、そこにデイサービスの車が来られて、子どもさんを連れて、1時間ぐらい読み聞かせコーナーっていうちょっと座れるところございますが、そこで本を読んで帰られているところもありました。頻繁に来られているかどうかちょっとわからないんですけども、そうやって、放課後デイの利用が増えたというような話は、よその図書館では聞いています。

委員 障がいのある方が利用しやすい図書館なのかというふうなところで、今後、施策を考えているとか、たくさん来ていただいたほうがいいので、多様性にこたえられるような、そういった取り組みを考えられているところはあるですか。

事務局 障がいのある方向けの図書ということですが、障がいがある方というのも、いろんな世代、いろんな方々に対処をしているということで、例えば大活字の本ですとか、朗読のカセットといったものも、いまだに結構利用がっております。電子図書館を今、導入しておりますけれども、電子図書館の方は白黒反転の機能ですとか、また自動読み上げる機能がございまして、そういったものも、紙の方のみよりも読みやすいというふうなお声も聞きますので、そういったかたちで資料をご利用いただいたりしております。直接的な障がいがあることとは違うんですけども、図書館で最近、ひきこもりや自閉症を持っていらっしゃる方の支援施設の方が、図書館のボランティアということで、配架ボランティアという本を並べるボランティアがあるんですけども、そちらに、週に何回とかですね、定期的な活動をされ、社会復帰のまず手前の第一歩ということで、図書館でまずボランティアして、社会と繋がっていくという取り組みの一つとして利用されている施設さんがございます。そういったところもボランティアさんとして、我々を受け入れまして、しっかりですね、触れていく道筋になればいいなということであります。

委員 障がいのある方々の集う場というか、そういったところの一つとして、図書館も大事な拠点かなと思うので、そういったことを進めていただければと思います。

議題 3 熊本市立図書館施設整備の方向性について

(資料 3)

(事務局より説明)

- 委員 市立図書館改修ということについては、今回初めて耳にされたという方もいらっしゃるかもしれませんが。イオンとの複合化などのお話も先ほどのご説明にあったかと思うんですが、いかがでしょうか。いろいろご質問、それからご意見等もおありになる案件ではないかと思います。
- 委員 先ほどイオンの話がありましたけれども、私自体は賛成です。というのは、20年ぐらい前ですかね。武雄市さんがカフェを最初に入られましたよね。あれでそこに人が集まって来られた。逆に今、本屋さんの中に喫茶店あるように、そういうものとも一緒にやるっていうのもですね、気軽に利用出来るのかなと。買い物をされた方たちが図書館に行って、子どもは図書館で本を読んで、その間、お母さんは買い物をするとか、それもいいのかな。3つの施設が老朽化しているということがありますので、やはりある程度広いところにそういうのが集まると、いろんな人たちがそこに集まってくるので。ここ、なかなか来にくいんですよ。イオンのところ、電車で来れますね。バスも来れますね。交通の利便性があって、人が集まって、そうするとまた図書館に行ってもいいよとか、図書館ってこんなところにあったんだと思うのが非常にあるので、やっぱり複合的なところが3つあるので、ちょっと大江の交流室がよくわからないんですけどね、これがちょっと残るのかなと思うんですけど、基本的には大江でもあそこへ持っていってもさほど変わらないのかなと思います。3つ別々にやるよりも一緒にやって、そういうふうにもうひとつはイオンさんのところに一緒にそういう話があればですね、進んだ方が私個人でしたら、なんかたくさんの方が来るんでいいかなと思います。
- 委員 商業施設と複合することのメリットということで、今ご意見いただいたかと思うんですが、他の委員の方はいかがでしょうか。
- 委員 私は、ボランティアの勉強会の時にアンケートがあるからということで、案内がありましたので、自宅から回答いたしました。基本的にはやはり私も大江公民館でも20年以上活動しておりまして、やっぱり古くなってます。無駄だなと思うようなことも結構ありますし、あとはイオンさんがどのくらいその建物をする時に、予算化とか、そういうのをね、考えていらっしゃるかわかりませんが、基本的には賛成です。あの行きやすいというのが、やっぱり何より行きやすい。それと駐車場も多分そういうことになったら、かなり広いのが確保できると思うので、やっぱり何よりも公共的なところは利用しやすいというのが一番ではないかと私は思いますので、1日も早く出来て欲しいと思っています。

- 委員 九品寺地区は、移動円滑化の観点で言うと、割とバリアフリーを推進、重点的に整える重点地区に指定をされているところで、そういう面では障がいがある方からも、今よりもアクセスしやすいというメリットもあるかもしれないですね。
- 委員 敷地はかなり広いですよ。この間ちょっと見て、私、あの辺りでちょっといろいろ活動したりしてるんで、よく見たらすごい広い土地の敷地なんですよ。今時、市の中心で、あれだけの土地を確保できて、有効利用出来るんだったら、もうこれこそ市民にとってはありがたいことじゃないかなと思います。だから進めてほしいと思います。
- 委員 複合的な施設を作ることについては大賛成です。今、五福小学校が五福公民館と複合化しています。当初、いろいろな意見がありました。しかし、出来上がってみるとですね、社会教育と学校教育の統合と言いますか、子どもたちが自由に公民館に出入りして、それから公民館の中の事業に協力をするという非常にいい感じに、私は生まれ変わったんじゃないかなというようなことを思っています。建設費用の面と公共の施設を民間の跡地に作ることの困難さについては、なかなか難しいところがあるんじゃないかなということを今考えているところです。
- 委員 両面の視点からのご意見、ありがとうございました。
- 事務局 すみません、前提の話の中で、イオンの跡地の横を今考えているところで、イオンさんとどういうふうにやるかはわからないんですけど、イオンさんの横の、跡地の横にですね、市が持っているところがありまして、そこを今、考えているところで、直接の跡地に建てるか分けるのかについては、ちょっとわからないような状況でございます。イオンさんの、横に、側に行くというようなイメージで、捉えていただくといいかなと思います。
- 委員 日本中の図書館を探せばいろんなものがありまして、例えばこの写真の中でいきますと、15ページですね。長崎ミライ on 図書館は、県立図書館と市立図書館を混ぜて一つにしてしまっているような図書館です。それを今、熊本で考えると、県立図書館の建物はもう少し使いそうなので、ちょっと想定には、はいらないのかなというふうに思いますし、大学図書館と混ぜてしまうような話もあるんですけども、ちょっと相手がないですよ。県立大学ぐらいまで行けば、あそこに大きなものを建てられなくはないですけども、今より不便な感じにはなるとは思います。というところで、スーパーと言いますか、商業施設の中に入るようなものでいきますと、右側の荒尾市立図書館は、ゆめモールの中に入ってまして、本当にスーパーの中のテナントの一つとして入っているような感じです。広島市だと駅前に、デパートがあったんですけども、その中に入りまして、そこは賃貸というよりは分譲で入った感じになって

るんですね。入ったのは、7階、8階、9階とかでして、働く側からすると本を下ろして移動図書館に積んでとかやりますと、上の階は結構大変ですので、今回もどういう格好になるかわからないですけども、働く人と来る人と、働く人にはいくらか頑張ってもらうようなところは起きるのかなとは思うんですけども、誰かが一方的に苦痛を感じるような形ではなくて、うまいことやっていければとは思いますが、その横の敷地に建てた方がいいのか、またはその大きなイオンの中のテナントとして入った方がいいのか、賃貸なのか分譲なのかとかいうのは、ここで決めることではないんだとは思うんですけども、いろんな考え方があるのかなというふうには思っています。

委員

ここは非常に静かな環境ですね。近くにいろんな学校があって、そういう地元の例えば子どもたち、高校生などからすると、非常に利用しやすい環境だったのかなと。まあ、500mずれるだけということではあるんですけども、そのあたりがどうだろうかというところはあると思いますがどうでしょうか。学校関係の方からのご意見ですとか、子どもたちがその複合施設の中に入って利用するということあたり、どうでしょうかねというところなんですけれども。

委員

多分利用頻度は増えるのかなと思っています。小学校ですと、やはり保護者、子育て世代は移動はもうほぼ車だと思いますので、商業施設に大きな駐車場とかが併設されて、それも一緒に利用できるっていうような隣ではあってもですね、そういうようであれば、またなおさらいいのかなと。車の道路の混雑とかはですね、さらに増えるのかなという、その辺はちょっと心配な部分も出てくるんだろうなと思いますが、利用頻度としては、多分増えそうかなという気はいたします。

委員

もし出来た時にはもうぜひ使わせていただきたいなっていうふうに思ったところと、私も前、小学校に勤めていた時には味噌天神で電車を降りて、子どもたちが遠い遠いと言いながらここに通った思い出があります。だから、本当にあそこの跡地に出来るのはありがたいなと思う。アクセスもいいし、おそらく複合施設として大きなものができるのは、駐車場も多分整備されるはずなので、おそらく車でも来やすいんだろうなというふうに期待はしているところです。先ほどから申し上げている、障がいのある方もいろんな方々もいらっしゃるんで、すべての方々が利用しやすいっていうか、行きたいって思えるような状態になって欲しいなと思います。全体的に、熊本市の施設を整備していく上で、やっぱり多様性であるとか、インクルーシブであるとか、そういったものに配慮していく施設を作っていくということであれば、図書館もそういった方向で充実させていただけたらいいのかなっていうふうに思っているところです。

委員

委員の皆様のご意見としては、商業施設、隣接地等での複合化には概ね賛成と

いうご意見が多かったかと思うんですが、よろしいでしょうか。特段反対というご意見がないですが。

委員 施設が3つ一緒にできるっていうことはコストも低くすみますよね。別々にするより。それともうひとつは保健所があそこありますよね。ですから、ちょうどあそこのところは市の施設を集約するところ。先ほどおっしゃったように、イオンさんとならなくてもその3つを合築するような土地の広さはあるんですよね。もしなければ、その辺で、例えば熊本城ホールあたりもそうじゃないですか。花畑の再開発の中のひとつで入ったわけですから。

事務局 敷地面積としましては、ここよりも若干狭くなるんじゃないかなと思いますので、上に伸ばすしかないという感じにはなるかもしれません。純粋に市が持っている土地だけを使うことになります。あと、おっしゃられた保健所の方ですね。その方はまだちょっと出来てから日が浅いので、あそこまで本当はまとめていろいろ開発すれば一番行政的にはいいんだと思うんですけども、ちょっとまだ出来てからあまり年数が経過してないので、あそこまでは巻き込めない。

委員 保健所を巻き込むんじゃなくて、保健所と隣接してるので、あの辺で一つで終わるんじゃないか。で、先ほど本田委員がおっしゃったように、やっぱりそのいくつかのパターンで、やっぱり費用ですね。費用をきちんと出さないと、なかなか市民も、私たちも皆さんがいいって言ってるんですけど、これに逆に莫大な費用がかかるって話になると、またちょっといろいろと一気に違ってくるので、この考えとしてはいいんですけども、本田委員がおっしゃったところも、少し合わせてですね。

事務局 市本庁舎も今ちょっとそういう話もあってますので、費用につきましては、まだ全然計算できてないので、正式には、コンサルを入れてやっていくなかで、やっぱり一番重要なところは、コストがどうなのかということで、おっしゃっていただいたように複合化することによって、共用部分が、省けたりということではメリットはあると思いますので、実際には、折り合いがつくような値段でどうなるか。あとは、イオンさんの方と一緒にになるとか、一部入るとかになるとですね、また交渉があって、次の段階はそういうところになると思います。

委員 複合施設っていうところなんですけど、私個人的にはやっぱり複合施設になればすごく便利だなと思って、すごい賛成なんですけど、子育てする親からした時に、複合施設の中に図書館があるとなれば、子どもだけで行っておいでと図書館だったら言えるけど、複合施設になると、そこを子どもたちが移動する、図書館だけで済まなくなるとなれば、やっぱり防犯的なところでちょっと心配があるなっていうのは一つ懸念ですね。

委員 そういう子どもたちの利用しやすさというような観点からも、配置ですとか、

そのあたりもですね、ぜひご検討いただけるとありがたく思いますので、よろしくをお願いします。それから、残念なのは、アンケートの結果が、本日の会議に間に合っていないということです。多分、地元の学校関係の子どもたち関係とかにもアンケートを取られているということです。そのあたりの結果が出ましたら、ぜひ委員の皆様にも共有をいただければと思います。本当にたくさんの活発なご意見を本日はありがとうございました。

以上